琉球大学大学院医学研究科救急医学講座 教授 梅村武寛 先生

○出口先生　遅ればせながら、令和３年４月から琉球大学大学院医学研究科救急医学講座教授にご就任おめでとうございます。ご就任にあたってのご感想と今後の抱負をお聞かせください。

○梅村教授　私は10年前に福岡から沖縄に来て、県立病院の救命センター長として働き、実地医学と言うのでしょうか、実際の市中病院での医療活動から先に経験しました。

その中で気付いた沖縄での救急医療の問題、実際やってみて、市中病院だけで対処するのは絶対無理だと、そこでやはり大学病院が中心となれるかどうかが大事であり、私の働き次第ですけれども、沖縄県地域全体の救急医療を整備するために働こうと思いました。これが抱負になります。

大学で実際に働いてみての感想ですけども、久しく市中病院で働き大学から離れておりましたので、例えば研究活動や、教室の運営というところに四苦八苦しているところです。大変だなとは思っておりますが、やりがいがあります。

○出口先生　ありがとうございます。ご就任されて２年程経っていると思いますが、先生が目指す講座の運営方針をお聞かせください。

○梅村教授　いくら大学が学問、研究をする場所であっても、臨床をないがしろにはできませんから、まずは大学病院での救急医療を確立することです。沖縄は実は全国的に見ても非常に進んでいる先進的な取組みをやってきた地域の一つです。ところが、例えば複数診療科に関わる問題、脳挫傷、肝破裂、骨盤骨折がある患者さんをどの科が診るのかなど…。

あるいはウォークインですね、軽症者～重症者まで全てを診るというのが救急医療の一つの形ではあるのですが、軽症者に各エフォート、

言うなれば力を注ぎすぎているかもしれませんね。対して、これは助けなきゃダメなんじゃないかという最重症者・超緊急症例に関して、さまざまな診療科、各領域の言うなればプロフェッショナルがたくさんいるわけじゃないですか。ところがみんな単体、あるいは各診療科だけで動いていると、助けられないものが出てくるのだと思います。そういうものを上手くリンクさせる、マネージできる、というような救急医療を私は目指しています。

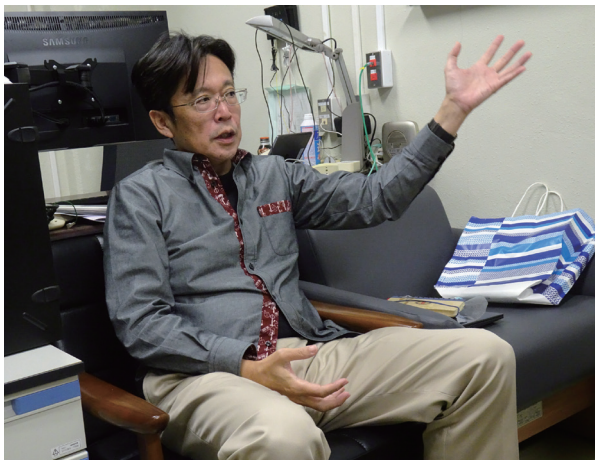
そこで、まずは、救急医療、それから救急医療に引き続いて行う救急集中治療の領域を勉強する、あるいは学びたいという若い人たちを集めるということが最重要課題ですね。そしてその次にやはり、研究や教育をしなければいけないし、当然それだけしていても、医学界を含む社会の中では発言権を持てないわけです。救急医学、救急医療というものが他の各診療科と並ぶような医学、医療を語れる講座にしたいと大きな夢を持っています。

○出口先生　素晴らしい、その通りだと思います。一方で、これまでは、それはそれで時代としては必要だったと思うんですよ。

○梅村教授　それなりに少しずつは間違いなく上手くいっていると思っていますけど…。

○出口先生　今後、救命救急センターを開設されて、特に県内にない高度救命救急センターというのを作って行かれることになると思うのですが、具体的な展望等ございましたらお聞かせ願えますか。

○梅村先生　そうですね、救命センターというものがどのようなものなのか、沖縄の救急医療では分かりにくくなっているかもしれません。ウォークインの患者さんをたくさん診ていて、例えば私の前職の南部医療センターは年間に4万ですよ。中部地区にある3つの救急病院は、軒並み数万～6万、一番多い時は7万診ていた



ようです。数を診ているのはもちろん良いことで、悪いことではないのですが。それを本当に救急医療として診なければいけないのか、つまりはただの時間外診療になっているのではないか、というのが、私が沖縄で実際に救急医療をやってきた中での懸念事項の一つです。

現在、救命センターは、県立中部病院、浦添総合病院、県立南部医療センターの3つがあり、それぞれ特徴がある救命センターです。そこで手に負えない症例、あるいは大学ならではの症例として、例えば臓器移植をした人の多発外傷症例や、担癌患者、さまざまな疾患を抱え複雑化している症例に対して対処が出来るということ、それから、各既存の救命センターあるいは救急病院のバックアップになる機能を私たちは持たなければいけないと思っています。そういう意味では医療に携わってくれている部署、病院、人々、つまり医師だけではなく救命士さんだったり、その他医療職以外の行政の方だったりを上手く結び付けられるハブとなる場所にしたいですし、そのようにしなければならないと考えています。沖縄は救急医療の横のネットワークがすごく大事なはずなのに案外存在しない感じもしているのです。各病院で完結してしまっているだけなのがもったいないと思っているので、そこを整備するつもりです。そういうことを含めて高度救命救急センターなのではないかと思います。それから、広範囲熱傷、多発外傷、基礎疾患がある方の内科的重症症例の対応ですかね。脳卒中、急性冠症候群は症例数も

多く、市中病院が小回りも利き、上手く対処できていることもありますので、すみ分け、使い分けを考えていくことも必要かもしれません。

そのためには、普段からの通常診療をきちんとやっておかなければいけない、ともかく救急部で患者さんを診るんだと、私が赴任してこの2年間で、救急科が主科となる入院患者さんをきちんと持つようにして、病棟管理から含めて少しずつ始めています。このような診療をできる様になった先に、高度救命センターはあるのかなと思っています。

○出口先生　医師会に対してのご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

○梅村教授　私は福岡から沖縄に来た時にまず公務員医師会に入って、それから県医学会ですね、初期研修医のレクチャーであったり、レセプションであったり、こんなに医師会の先生たちが我々、勤務医や若い先生方に色々としてくれるのか！という、とても好意的に感じています。

出口先生もそうですが、いつもお世話になっている田名先生などが実際の活動をしながら私たちに声をかけてくださる。以前の医師会のイメージって、そもそも自分で動くことなく、色んな会議体でお話しするだけ（すみません、勝手な妄想です）みたいな。ここ沖縄県の医師会は実際の行動を共にしているので、とても信頼しています。災害のこともそう、コロナのこともそう、それから私が一番感銘を受けているのは、初期研修医をはじめとする若い先生方への働きかけです。なぜ沖縄にこれだけの初期研修医が集まるのか、もちろん研修制度が良いこと等は当然としても、それをサポートする医師会の活動がすごいのだと感じています。これを目の当たりにしてきたので、大学でも医師会に入りなさいと、沖縄県の医師会だったら損はしないからと勧誘しています。そういう意味では日頃の活動から感謝をしています。要望はこれを！というものがあんまりないですね。当然、医師会ですから、開業医の先生方の職能団体というのは当たり前です。しかし、それだけではない地域の医師の、医師全体の職能団体としての務めを果たそうとしてくださっているというのを私は感じています。

今後も積極的に大学であったり、県立病院であったり、病院勤務で実際の診療の前線にいる人々と交流等を今以上に持ってくださるとうれしいです。

○出口先生　肝に銘じます（笑）

○梅村教授　でも本当にすごいですよね、沖縄県医師会って。

○出口先生　私も、実は医師会は、東日本大震災までは一切関わりなかったんですよ。時々講演会や何かを見に行くくらいで。入ってはいたけど、活動はあまりなかった…。

東日本大震災の時に当時の宮城会長と、副会長の玉城先生をよく知っていたので、起こった日の翌日の朝、玉城先生に電話をして、これは医師会として何かをしなければ駄目だよと、僕は阪神淡路大震災の時に行ったことがあったので、その話をしたら出張を取りやめて戻って来てくれて、行きましょうと。それで出口先生に任せると言われて、それからは事務局員を3名くらいつけてくれて、用意するものを言ったら全部準備してくれたんですよ。これは恩返ししないといけないなと思い、医師会活動を始めました。

○梅村教授　いや、これってすごいですよね。普通医師会ってこうしてください、ああしてくださいと言ったってまあ動かん（イメージでした）。（笑）

○出口先生　その時の玉城先生は即答でしたよ。すぐ翌日に関係者を医師会館に集めて、県からも部長が来て、お話をしました。相談したらすぐスイッチが入りました。

○梅村教授　もちろん各地域でそういうところもあるのでしょうけど、県の医師会ですからね…すごいですよね。

○出口先生　そろそろインタビューも終わりに近づきました。梅村先生のご趣味、健康法を教えて下さい。

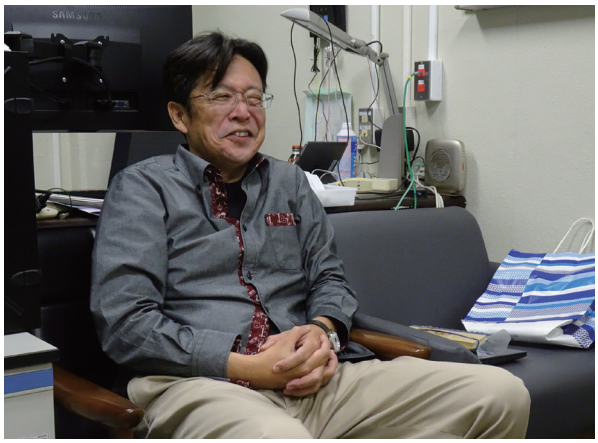
○梅村教授　車が大好きなんですよ。沖縄に来て車をどうしようかと思っていたけど、幸いなことに知り合いから細々と手に入れましてね。健康法にはならないけど、車が大好きです。（笑）

小さい時から車が好きで、とにかく人と違う車というかちょっと手が入った車が好きです。AMG とか、M シリーズとか、カールソンとかああいうものが好きですね。外車が好きってわけではないんですけどね。

あと、猫が 5 匹います。猫まみれ。

ゴルフもまあ好きです、気持ちがいいじゃないですか。実は学生がゴルフコンペを開いてくれて、教授陣を呼んでくれるのです。去年も久しぶりにして、それ以来 1 回もゴルフクラブ握っていません。（笑）ゴルフは 1 日つぶれちゃうのでなかなか時間が取れないですよね。

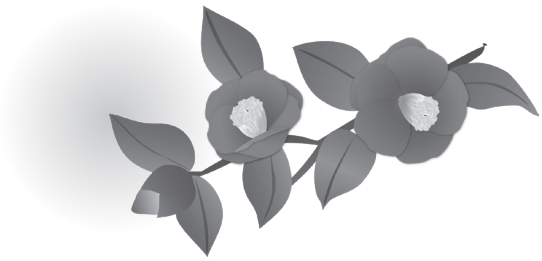
海は、マリンスポーツ自体はしないのですが、元々、海の近くに住んでいて、素潜りをしたり、シュノーケリング等、潜るのが大好きです。本当は海も行きたいのですが、沖縄に来てからは、海にも行かない、ゴルフにも行かない、この 10 年間そういう意味では何もしてませんね。（笑）



P R O F I L E

1995 年	熊本大学医学部　卒業
1995 年	熊本大学医学部附属病院　整形外科　入局
2002 年	福岡大学病院　救命救急センター　助手
2005 年	財団法人救急振興財団救急救命九州研修所 専任教授
2010 年	福岡大学病院　救命救急センター 講師・医局長
2014 年	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター　救命救急センター長
2021 年	琉球大学大学院　医学研究科救急医学講座 教授

沖縄に来て何が良かったかと言うと、気候が良いですしね、とにかく過ごしやすいので出ていきたくなくなるくらい住みやすいです。飛行機さえ乗れれば沖縄は便利！台風が来た時だけは困るけどね。（笑）

○出口先生　本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

インタビューアー：広報委員　出口　宝